



平成20年3月期 第3四半期財務・業績の概況

平成20年2月5日

上場会社名 ダイソー株式会社 上場取引所 大・東
 コード番号 4046 URL <http://www.daiso.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 存
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 今里 嘉彦 TEL (06) 6110-1560

(百万円未満切捨て)

1. 平成20年3月期第3四半期の連結業績 (平成19年4月1日 ~ 平成19年12月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第3四半期	58,280	6.7	3,299	20.9	3,418	22.3	1,880	21.7
19年3月期第3四半期	54,598	8.8	2,728	13.4	2,794	10.6	1,545	16.4
19年3月期	72,398		3,610		3,735		1,974	

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
20年3月期第3四半期	17	23	16	70
19年3月期第3四半期	14	27	14	20
19年3月期	18	23	18	10

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
20年3月期第3四半期	75,778		33,412		44.1	305	24	
19年3月期第3四半期	68,856		32,968		47.9	304	25	
19年3月期	68,618		33,623		49.0	310	03	

2. 平成20年3月期の連結業績予想 (平成19年4月1日 ~ 平成20年3月31日)【参考】

平成20年3月期通期業績予想については、前回発表(平成19年11月15日)の業績予想からの変更はありません。

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	78,000	7.7	4,400	21.9	4,500	20.5	2,400	21.6	21	95

3. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結の範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

[(注) 詳細は、2ページ【定性的情報・財務諸表等】 3. その他をご覧ください。]

【定性的情報・財務諸表等】

1．連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期のわが国経済は、企業収益の改善による設備投資の増加や雇用環境に底堅さはあるものの、原油価格の高騰や住宅着工件数の減少などにより、景気の減速感が強まっております。また、国外においても、米国のサブプライムローン問題および原油価格高騰の長期化による原材料価格の高止まりなど、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況下で、当社グループは、より一層存在感のある企業グループを目指して、昨年度よりスタートした中期経営計画「ADVANCE-08」の2年目を迎え、基本戦略である「コア事業の強化」「事業領域の拡大」「積極的な海外展開」に引き続き注力するとともに、当社の得意分野に経営資源を集中しコア技術の強化を行い、「強い競争力を持った製品群の構築」を目指し事業展開を図ってまいりました。

基礎化学品では、旺盛な需要に対応するためエピクロルヒドリンの製造設備とアリルクロライドの製造設備を増強するとともに、引き続いてコストダウン投資を積極的に推進してまいりました。また、原材料価格の高騰に伴い、製品価格の改定に取り組んでおります。

機能化学品では、医薬中間体設備の新設、酸化イリジウム電極、液体クロマトグラフィー用シリカゲルの設備を増強し、さらに、アリルエーテル類、エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂、省エネタイヤ用改質剤、光学活性体などの高付加価値製品については、海外を中心に新市場の開拓と新規用途の開発など積極的な事業活動を展開してまいりました。また、引き続き、ダップ樹脂、省エネタイヤ用改質剤、アリルエーテル類の製造設備の増強に着手しております。

住宅設備ほかでは、化粧板等のダップ加工材は、住宅着工件数の減少による不燃化粧板、収納扉の需要不振及び新規受注品の立ち上がりの遅れにより、売上高は減少しました。

以上の結果、当第3四半期の連結売上高は582億8千万円と前年同期比6.7%の増加となりました。連結経常利益は34億1千8百万円と前年同期比22.3%増加するとともに、連結純利益につきましても18億8千万円と前年同期比21.7%の増加となりました。

2．連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期の財政状態は以下の通りです。

総資産は前連結会計年度末に比べ71億6千万円増加し、757億7千8百万円となりました。主な増減は、流動資産では現金及び預金の増加17億6千9百万円、受取手形及び売掛金の増加28億4千2百万円などであり、固定資産では有形固定資産の増加25億4千9百万円などであります。

また、純資産は、334億1千2百万円となり、自己資本比率は、44.1%となりました。

3．その他

(1) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

法人税等の計上基準については、法定実効税率による簡便な方法により計算しています。

引当金の計上基準等については、一部簡便な方法によっています。

4.(要約)四半期連結財務諸表

(1)(要約)四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前年同四半期末	当四半期末	増減	(参考)前期末
	平成19年3月期 第3四半期末	平成20年3月期 第3四半期末		(平成19年3月期末)
	金額	金額	金額	金額
(資産の部)				
流動資産				
現金及び預金	3,431	5,626	2,195	3,857
受取手形及び売掛金	24,632	25,970	1,338	23,128
たな卸資産	6,920	6,972	52	6,513
その他の	2,087	1,681	406	1,826
流動資産合計	37,071	40,251	3,180	35,326
固定資産				
有形固定資産	16,370	19,388	3,018	16,839
無形固定資産	1,220	1,114	106	1,242
投資その他の資産	14,192	15,024	832	15,209
固定資産合計	31,784	35,527	3,743	33,292
資産合計	68,856	75,778	6,922	68,618
(負債の部)				
流動負債				
支払手形及び買掛金	15,577	15,491	86	15,043
その他の	9,895	9,968	73	9,601
流動負債合計	25,473	25,459	14	24,645
固定負債				
新株予約権付社債	1,183	7,000	5,817	1,170
その他の	9,231	9,906	675	9,179
固定負債合計	10,414	16,906	6,492	10,349
負債合計	35,887	42,365	6,478	34,994
(純資産の部)				
株主資本				
資本金	10,475	10,636	161	10,488
資本剰余金	8,987	9,148	161	9,000
利益剰余金	9,539	11,145	1,606	9,968
自己株式	158	176	18	161
株主資本合計	28,844	30,754	1,910	29,297
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額	4,118	2,631	1,487	4,317
評価・換算差額等合計	4,118	2,631	1,487	4,317
新株予約権	5	26	21	8
純資産合計	32,968	33,412	444	33,623
負債純資産合計	68,856	75,778	6,922	68,618

(2)(要約)四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	前年同四半期	当四半期	増減	(参考)前期
	平成19年3月期 第3四半期	平成20年3月期 第3四半期		(平成19年3月期)
	金額	金額	金額	金額
売上高	54,598	58,280	3,682	72,398
売上原価	44,328	47,356	3,028	58,556
売上総利益	10,270	10,924	654	13,841
販売費及び一般管理費	7,541	7,624	83	10,230
営業利益	2,728	3,299	571	3,610
営業外収益	233	314	81	321
営業外費用	167	195	28	196
経常利益	2,794	3,418	624	3,735
特別利益	2	-	2	2
特別損失	305	238	67	576
税金等調整前四半期(当期)純利益	2,491	3,180	689	3,161
税金費用	946	1,300	354	1,187
四半期(当期)純利益	1,545	1,880	335	1,974